

「新体操では、技術以上に
日常生活での礼儀が大切。」

小林秀峰高校新体操部

ながの まもる
永野 護 監督



部員は3年生8人、2年生7人、1年生6人の計21人。現在、インターハイに向け、新たな演技の開発、練習に日々励んでいる

育ててくれた母校、
支えてくれる人たちに
感謝の思いを
結果で伝え続ける

技の美しさ、スピード、

ダイナミックさが醍醐味の
競技「新体操」。全国屈指の

強豪小林秀峰高校男子新体

操部は、3月に開催された

第31回全国高等学校新体操

選抜大会で2年ぶりとなる

全国制覇を成し遂げた。そ

の日本一のチームを12年間、
率いてきた人がいる。

永野護監督、42歳。

自身も同部出身で高校、

大学で日本一になるなど輝

かしい成績を収めている。

その実力は、県外から指導

者としてスカウトされるほ

ど。しかし、そんな誘いも

すべて断り、大学卒業後に

教員を志し帰郷した。

「育ててくれた母校のため

に少しでも力になりたかつ

た」と当時の思いを語る。

教員になり、平成17年に

監督に就任。しかし、待ち

受けていたのは厳しい現実

だった。初めてのインター

ハイ、全国選抜では7位と

悔し涙を流した。

新体操は、わずか3分間

ですべてが判断される競技

だ。「力を出し切るためには、
まずは、あいさつなど当

り前のことができる礼儀正

しい選手でなければならな

い」。日常生活から正すこと

を徹底した。すると、選手

の練習に対する姿勢が徐々

に前向きになり、着実に力

をつけていった。就任3年

目の全国選抜大会で初めて

優勝すると、これまで5度

の全国制覇を成し遂げた。

しかし、満足はしていな

い。「この部は多くの人に支

えられている。勝ち続け、

結果で感謝を伝え続けなけ

ればなりませんから」。

永野監督の目は、すでに

8月のインターハイを見据

えている。全国2冠の栄光

を手にするために。

小林 人
こばやしびと
Vol.57